

呼吸器内科

【概要】

当院は日本呼吸器学会認定施設であり、呼吸器学会指導医(1)、専門医(3)、呼吸器科医師(1)の4人の経験豊富な専任スタッフで、内科認定医、総合内科専門医、呼吸器内科専門医の取得を目指した専門教育指導を行います。H29年度にアレルギー専門医も誕生しました。

当院は地域の24時間救急病院で症例は幅広く、また在院日数は10日を切って患者の回転が速く、多くの多彩な急性期症例を経験できます。気管支鏡、TBLB、経皮的肺生検(CT下)、内科医の行う胸腔鏡下胸膜生検・癒着術、気管支動脈塞栓術、NPPVなど人工呼吸器管理、ICU治療管理など呼吸器科医としてどこでも通用できる幅広い技術が、短期間で実践的に身につく指導を行いたいと思っています。胸部外科医が存在し、VATSなど肺手術も迅速に可能で、生検組織については常勤病理医との直接ディスカッションが可能です。優れた呼吸療法士とチーム連携し、急性期、慢性期呼吸管理が経験できます。肺癌の分野では、進歩の著しい分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬も積極的に導入し経験が蓄積されつつあります(図参照)。閉塞性肺疾患については薬剤師と協力した吸入指導、新規薬剤の積極的な導入も推進しています。間質性肺疾患については膠原病・リウマチ科の存在で患者数が非常に多く、これまで豊富な症例、稀な症例を発表してきました。睡眠呼吸障害ではPSG、CPAP治療が日常的に診療、経験できます。研究会・学会発表、カンファレンス、病理検討会も非常に活発です。

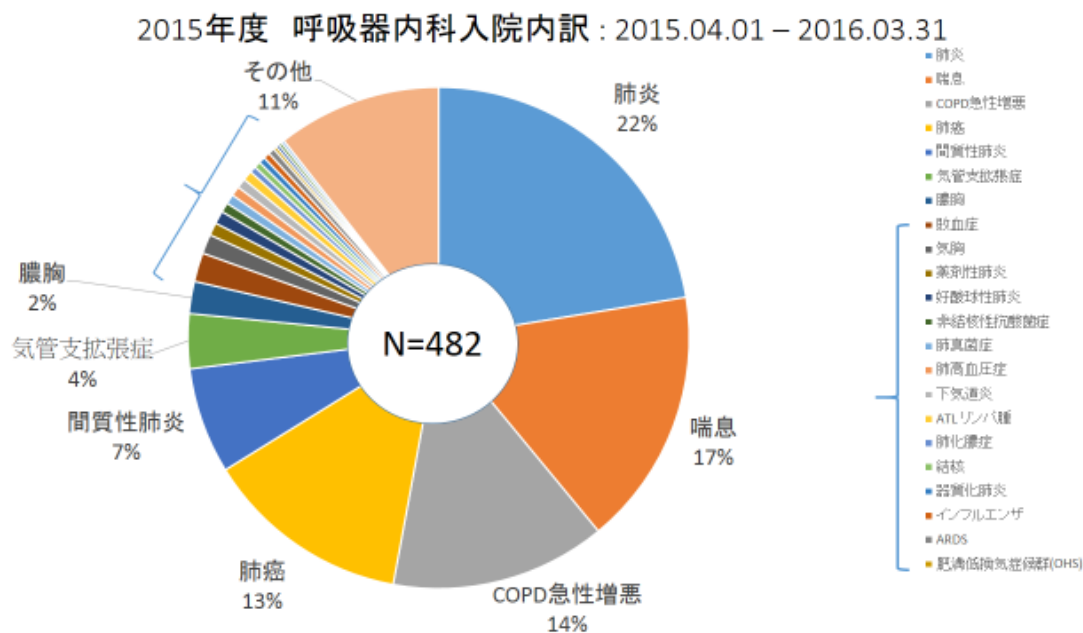
☆ 呼吸器内科の診療領域は多岐にわたります



※ 当院の呼吸器内科医師はオール・ラウンドに対応し、地域のニーズに応えます。

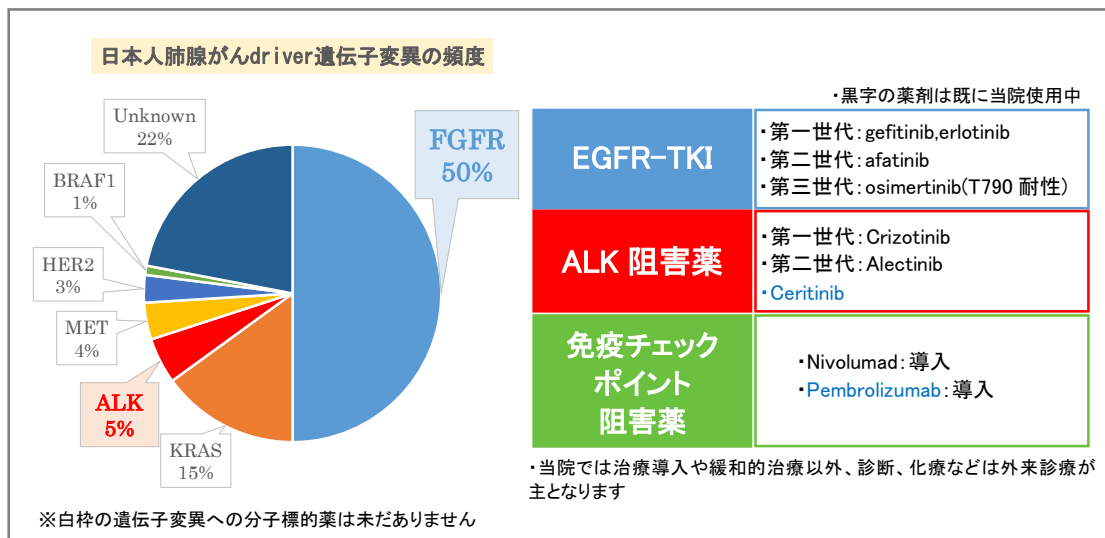
呼吸器内科診療のご紹介

- ・地域支援病院として、地域の要求に応えられる呼吸器内科進路を目指しています。
EBM に基づいた呼吸器専門医による標準的治療を基本として、納得のいく良質な医療を提供し、病診連携、病薬連携にて地域での包括的な医療を行う。
- ・呼吸器紹介患者の精査と治療：肺癌、間質性肺炎、重症喘息、重症 COPD、慢性呼吸不全やその他、呼吸器疾患一般。
- ・呼吸器救急患者の入院治療：市中肺炎、医療・介護関連肺炎、喘息増悪、COPD 急性増悪、間質性肺炎急性増悪、気胸、喀血、ARDS など。
- ・睡眠時無呼吸症候群の診断・治療：終夜ポリソムノグラフィーによる診断、CPAP 治療。
- ・希少肺疾患の診断・治療：サルコイドーシス、非結核性抗酸菌症、肺胞蛋白症、PLCH 等。
- ・呼吸療法士、呼吸リハビリスタッフも回診に参加した呼吸器チームでの診療を実施しています。
- ・呼吸療法士が関与する、在宅酸素療法(HOT)、在宅 NPPV 治療、在宅人工呼吸療法。



【進行非小細胞肺癌治療の進歩：分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬】

- ・進行肺癌(主に**腺がん**)では、かつて生存期間中央値(MST)が僅か1年程度から、現在では3年以上に達し、当院でも4年以上の症例は稀ではありません。分子標的治療薬、化療、血管新生阻害薬等の使い分け、個別科学治療により、治療成績は飛躍的に向上しました。
- ・当科は進歩の著しい非小細胞肺癌治療に、県内でも先進的に下記の新規治療薬を導入し地域に貢献しています。
- ・積極的に組織検査、遺伝子検査を行っています(耐性遺伝子に対しては re-biopsy liquid biopsy)



【 当院気管支喘息の診断と治療の進捗 】

- ・ありふれた呼吸器疾患(気管支喘息、咳喘息)に新規の診断ツール(呼気一酸化窒素濃度測定)が登場しました。
- ・吸入ステロイド(ICS)、長時間作用性 β_2 刺激薬吸入(LABA)、長時間作用性抗コリン薬吸入(LAMA)の単割、合成が主な治療手段で薬剤師との連携した吸入指導が必要です。
- ・重症持続型喘息に対してはモノクローナル抗体製剤が有効です。

呼気 No 濃度測定 FeNO	<ul style="list-style-type: none"> ・好酸球性の気道の炎症(biomarker)が簡便、繰り返し測定可能な検査方法です。 ・喘息、咳喘息、ACOS(喘息・COPD overlap 症候群)の診断、治療評価の指標で非常に有用です。
ICS/LABA/LAMA	<ul style="list-style-type: none"> ・ICS ・ICS/LABA 合剤 ・LABA/LAMA 合剤
交代製剤 分子標的治療	<ul style="list-style-type: none"> ・抗 IgE 抗体: Omalizumab(ゾレア) ・抗 IL-5 抗体: Pembrolizumab(ヌーカラ)

← 吸入指導のできる薬剤師との連携が非常に重要です

※当院薬剤師(医師)と地域の薬剤師は、適切な吸入手技、アドヒアランスについての相方向評価システムで連携を行っています。
 ※当院薬剤師は吸入療法の導入にあたって、患者毎の個別化したデバイス選択に関わっています。

【お問い合わせ】

社会医療法人 友愛会

豊見城中央病院

臨床研修支援室 担当:川平

TEL:098-850-3811 FAX:098-850-3810
